

刊夕日三十二月八



定価一円... 発行所 常磐毎日新聞社... 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

經典の秘義

眞 繼 雲 山

古來、攘夷延壽の秘經として、尊信せらるゝものに『佛頂尊勝陀羅尼』がある。古へより靈驗をもつて知られ、唐にあつては代宗帝以降、本朝にあつては僧空海これを弘通してより以來、上は宮中より、下は民間にわたつてあまねく尊重せられて來た。

ノウボバギヤバタイに始まりマカボタレイソワカに終る八十七句より成り、禪林にあつては誰れ知らぬものはない。これが暗誦でさねば禪坊主の資格はない。

それほど尊い經中には全体何が書いてあるのかといへば、もと／＼梵語の書き流しであるから梵語をしらぬ日本人や支那人が讀んだだけでは、その意味は分らない。梵語を知つてゐれば誰にでも翻譯は出来る筈だが、陀羅尼は呪文であつて翻譯せざるを本義とするその敢へて譯しないのは、譯文では經中の本義眞韻を傳へかねると、誤譯を笑はるゝを恐るゝせいでもあらう。陀羅尼の譯文は古來絶無ではないが、初心者の希求するほどに學者仲間では重視珍重せぬ。

珍紛漢紛、字義の分らぬものを棒讀みにしてゐても一向始まらぬとも考へられるが、靜觀すると必ずしも然らず。

元來文字は音聲を寫した便宜上の形式であり、その音聲とは思想感情の一部分を表現したものであつて、その當人の思想感情の全部が寸分誤りなく文字となつて表現され得るものではない。それを自分の思ふ通りに傳へたいものと焦つてへたくソ辯士が尙ほ又／＼を連續して、容易に演壇を下らさず聴衆にアクビをさせる段取となるのであつて、多辯は銀であり、無言は金である。維摩の一默は後人をしてその一默の眞意を誤りなく諒得せしめるに近い。

『君ヶ代』を英譯しても『君ヶ代』の風格は傳へられず、その眞韻は四大節に合唱せられる處においてのみ合点せらるゝ。古人が選いて經中の陀羅尼を譯しなかつたのも故ありしと頷かしめる。

元來、お經はその文面を通過して經意を知るといふ解學としての効用を有すること勿論であるも、別に經

文を讀誦して、その眞義に體達し、信心を獲得するといふ行學としての使命を有つ、さうして宗教とは結局學問ではなくして信心を得るにありとすれば、經典讀誦の目標は、寧ろ後者にある。梵語『南無阿彌陀佛』とは譯して『歸命、無量壽無量光』なりといふことを何ほど知つて見ても安心は得られず、反對に、南無阿彌陀佛の字義は露更ら知らずとも、念佛の一行によつて彌陀の本願に乘托した善男善女は古來、甚だ多いのである。

お經の起原は、佛滅の直後、畢波羅窟における第一回の結集において強記第一の阿難が、佛在世當時の記憶をたどり、釋尊の説法せられたそのまゝの言葉を、そのまゝの音調で『如是我聞』と誦し出したのに始まり、その語調音聲が、あまりにも釋尊に生き寫しであつた爲めに、一座の面々は吃驚かつ流涕したといはれる、その時の阿難の誦經が、爾後代々の合誦口授によつて二千五百年後の今日にまで師弟相承して傳へられて來たのであるから、今日の坊さんが、葬式や佛前において讀誦する經文の音調は、殆んど失はれてゐるにせよ、兎に角釋尊の音調が、萬分一の薬ほどにせよ残つて來てゐるのである。

この故に、たとへ讀み手が、感服しかねる坊さんであるにしても、寺院における經典の讀誦は、文字の意味以外、その音調に、佛教音樂としての價値を有するのみならず、音調そのものに無量の歴史的意義ありと見るべきである。

尊勝陀羅尼にしても、音調を度外して、單に片假名を拾ひ讀みしたのでは、何の變哲もないけれど、師子

の儀軌に則り、朗々讀誦するにおいては、三千年前、釋尊の發せられた感情表現としての宗教を、そのまゝ體得しうると共に『デビ〜』にも『ナムカラタナ〜』にも見ることの出來ぬ尊勝陀羅尼獨自特有の眞韻を看取し得るであらう。實際のところ、月を見て『あ〜』といふその『あ〜』は翻譯や説明では満足に傳へられない、月下のその至境に立ち、如實にその音聲を味覺するの外はないのである。

…完…

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

大和田醫院

平南町 (電話一七〇番)

金三井

タクシー

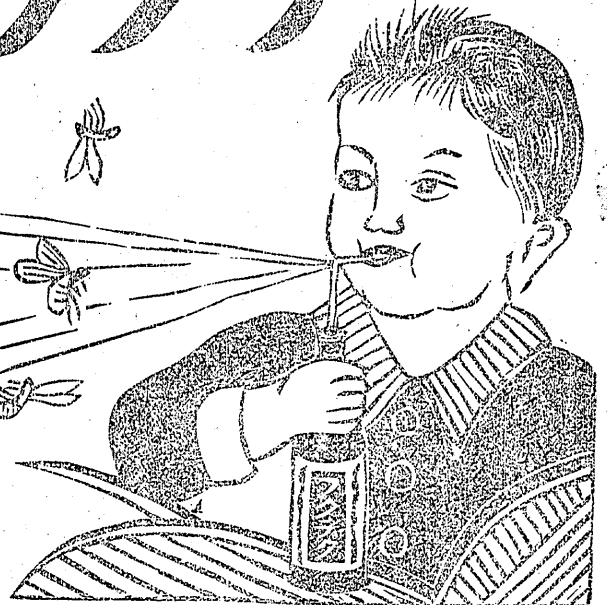
電話六八五番

金銀高價買入

根本時計店

質札は(金時計鎖指輪類)有利に御相談致します
平町田町 丸新デパート

クラクラ



蚊蚊・南京虫・油虫・羽虫・蚤・虱退治にほんの少して一たまりもなく死ぬ

平町新川町(電話一七二)
代理店長 松崎商店 大室屋

市原醫院

平町田町(電話一一四番)

- 内科、小兒科 市原卯太郎
 - 外科一般、婦人科 市原陸郎
 - 外科、梅毒、淋毒 市原三三男
- 入院隨時

毎度御ひいき

有難ふ御座ります

うなぎの御用命は

うなぎ 奴

平町田町(電話二二番)
ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

片濱を連絡する

大道路の計画

建設既成同盟會組織され

一町五ヶ村からの陳情書

昨報四倉町より新舞子を経て赤沼海岸に至る道路は一町五ヶ村を連絡し幅員十三メートル(約七間)延長一萬一千七十二メートル(約六千九百十間)に及ぶ大計劃にて石城海濱直通道路建設既成同盟會を組織し

金成四倉 愛川大浦 阿部草野 高木夏井 鈴木高久 遠藤夢間

各消防組頭其他連署を以つて此程本縣知事に陳情書を提出したが其の要項左記の如くである

一、小名濱商港及び江名濱漁港と四倉漁港とは新舞子の砂洲を隔て一望指呼の間に相見候へ共彼我相通すべき道路無き爲め殆ど圓周の大半を廻る如く五里乃至六里の遠距離を要し甚だ不便を感じ居り候然るに今回陳情請願の道路竣成するに於ては江名濱に參里、小名濱に四里を以て四倉と相通するを得可き必要缺く可からざる交通道路に相成り申す可く候、此の交通の完備と事業地の短縮距離とは小名濱第二種商港と四倉漁港とを一丸として過、不相扶け以て

地方産業界に一段の光明を添ふるに至る可く又沿道農村も一躍明暗位置を替へ交通運輸の至便と相俟て農蠶の發達に資する事絶大なる可きもの有之事と存し奉り候

二、天然の風景新舞子は夙に日本百景の一として歌はれ此の大風景と清緒とは須磨、明石、舞子の比にあらざる絶景に有之候へ公共交通不便のため此大

全景を採賞するもの殆んど稀にして昨今世人は漸く其一端を觀賞するに至りたるものに有之状態にて誠に遺憾に存し候又沿岸には渺茫たる一大砂原有之候へ共往古より茲に

は植樹の道なきものとして自然の儘となし來りたるものに有之候然る處近年是に防風樹を植付くるの試験を爲したる結果現今に於ては其施業の至難ならざる事を認むるに至り申候、茲に於て是の天然の絶景に沿ふて此處に道路を開設し防風樹を植え之を畑地及び宅地となすに於ては年次人口増加に苦心致しつゝある今日幾分緩和する一助とも相成る可く兩様相俟て地方住民の幸福を増進するものと存し候

三、吾等の一町五ヶ村は數里を隣りて常磐線中最も殷賑なる商業地平町あり

又之れに近接して全國的に有名なる常磐炭礦地有之候吾等の子弟は從來是等の地を生活の本據とし平町に於けるものは小僧番頭、弟子又は手代職人となり其の業に満足し石炭採掘業に職を求むるものは事務労働其他各々適所を選びて生業と爲し來り居り申候然るに數年に亘る不況は近時殊の外著しき爲め前述の商工業採炭業者は日毎に事業を縮少し軒を列へて休業し或は廢業するの止むなき状態に有之候爲めに之に従事し來りたる吾等の子弟

は止むなく其の業に離れて生家に歸り來り爲すに業なく徒らに座食し居るの窮狀に有之候然れども幸ひ諸物價低廉の爲め農蠶漁業者は代ふるに粗食を以てし細々と其の日を凌ぎ居り候へ共弱少農蠶漁業者は今後は等の家族を如何にして扶養せんかと郷黨を擧げ苦慮致し居る状態に有之候此機に臨み本陳述の土木事業を起し吾等居村の失業者に職を與へ之を以て自力更生の資料たらしめんと目論見仕り候

米商人集らず

共同販賣中止

豊作豫想から

下落を見越す

平穀物検査支所管内の産米相場は廿日より五等一俵で七圓と云ふ破格の安値に低落したが本年の稲作が豊作

である事を見越した商人連はいづれも買ひ方を中止して居るので同支所管内の米穀共同販賣は商人連が一人して以後おされたことは平常の練習による精神的敗退である、高橋、豊島の不振で田久(小川)の入選となつたが素人としては上出来である、縣の大會にはベストテン第四位の佐藤(郡山)があるから優勝は出来なくとも第二位はねらはねばならぬ所である、これは仲々苦戦なれば精々自重して猛練習を望む次第である

青年体育 本郡の陣容

十八日の本紙上に青年体育大會の競技豫想を報じたが結果に徴すると殆んど豫想に違ひなかつた今度は更らに競技過種の反省を爲し來る十月行はれる縣大會へ出場する本郡の陣容の短評を試みる

反省と短評(一)

一、百 米

これは豫想の如く草野(小名)十一、四で優勝した、昨年のレコードを破れなかつたことは其々残念である

二、四百 米

が君の私生活の不幸が左様ならしめたことであるから約四十日の猛練習で限畔原頭には十一秒二位のレコードで期待をこらして

も集まらず僅かに大浦倉庫のみが毎回取引を見る外去る十五日の錦村、廿日の勿來、廿一日の神谷等の共同販賣は何れも中止の己むなきに陥つた

平町人事
回出生
△胡摩澤一二一佐藤定助氏 四女照子
△田町五四島田克氏二男晶平
△八幡小路三八野崎春雄氏 二女麗子

貸切は...

電話三四三番の

昭和タクシーへ!!!

葬具と 霊柩自 自動車御 用達

新らしく安い

造花

平町新川町十九

本橋

電話一六四番

平新川町十九

外産婦人科 木村病院

電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎

内臓外科 醫學士 内 木 宗 八

泌尿器科

愈々具體案成つた 公會堂の建設

二千名收容のホール

百疊敷の日本座敷

町會に上提

平町會は来る廿五日午前十時より町役場會議室に於いて開かれるが議案としては水道擴張工事竣工による豫算の更正及び公會堂の建設案其他であるが公會堂の建設は豫より委員が調査せる如く十五丁目十七番地内(元郡會議事堂跡)の千四百八坪に工費五万圓を投じて二千名を收容する二百五十坪の洋間及び百疊敷の日本間外敷室を抱擁し大平町の面目にふさはしい公會堂を設置される計劃であると

朝歸りの...

駄賃に窃盗

怪しいと見られた

前科二犯の青年

石城郡湯本町字上町地内を去る廿一日午後十一時頃一名の青年が徘徊するのを舉動を怪しみ密行中の平署大谷刑事が本署に引致取調べると同人は山形縣西田川郡加茂町字大宿生れ當時住所不定内藤鶴吉といひ窃盗前科二犯の強か者で同人は去る十九日の夜平町鎌田町の遊廓住吉樓に登樓翌朝家人所有の金銀眼鏡外敷點を窃取した事自白に及んだが平町の餘罪多數ある見込で目下嚴重取調中である

豚の相場

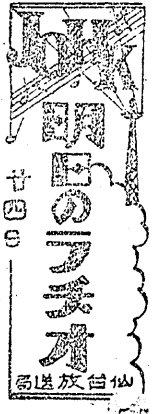
益々騰り氣味

豚の需要期もそろ／＼迫つて来たので去月中より本月初旬にかけて四五割を上下

湯本町早くも...

一業地を特設

石城郡湯本町にては現在飲食店三十五軒が町内に點在して風紀上いかがはしいので最近町有志と營業者間が相談の結果三十五軒全部を同町吹矢地内元警察社宅跡空地に移轉する事になつた



明日のラジオ

明日は北東の風 晴一時驟雨もあります

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童話劇「九人のくろんぼ」 胡蝶座
- 後六、三〇 夏期英語講座 (十八) 毛利八十太郎
- 後七、三〇 講演「滿洲國承認問題と九ヶ國條約」 京都帝大教授 法學博士 末廣重雄
- 後八、〇〇 義太夫「菅原」

明日の部

- 後九、三〇 滿洲より
- 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
- 前六、三〇 家庭教育講座 (八)「特殊兒童の教育即ち天才兒と劣等兒の教育に就て」奈良女子大學 教授 西本三十一
- 前七、〇〇 エスベラント講座 日本エスベラント學會 國際常設代表 進藤靜太郎
- 前七、三〇 夏期兒童講座 「七響梯山と猪苗代湖」福島縣師範學校教諭 山島武治
- 前九、一〇 料理談話「桃の蒸菓子」河内拾松
- 前一〇、三〇 家庭講座 「新らしき舞踊」八 高田せい子
- 後〇、〇五 獨唱と管絃樂 獨唱ジエナロボナグイタ東京ラデオオーケストラ

音響

石城郡下各小學校教員は音響研究會を設置すべく赤井第二山崎好間三瓶 豊間木村各訓導發起となり奔走中の處會員十二名に達したので昨日磐城中等學校に於て總會を開いたが毎月第一、第三の日曜日に磐城中等學校に於て研究

常慶寺施餓鬼

石城郡上小川村の常慶寺では去る十八日午後一時より施餓鬼を執行了たか餘興として盆踊、素人芝居等があつたので參詣人で非常に賑つたと

情けいも恨

恩知らずの弟子

住所不定宮城縣石巻町生れ大工佐々木吉之介(二)は東京で失業したる廿日以前の親方であつた石城郡内郷村字平太郎大工職安田政吉(四)を頼つて來り一泊したが翌朝政吉の大工道具と三圓餘在中の裏口を窃取逃走したので届出に依り平署は吉之介の行衛嚴探中

小川村

農蠶況

石城郡上小川村に於ける本年度の初秋蠶は大体昨廿二日上篋を終り遅くとも廿四五日頃には全部の上篋を見る豫定であるが適度の降雨もあつてわの發育も充分であり害中の發生は殆んど見られなかつ

鹿島衛生區長

石城郡鹿島村各部落の衛生區長會は廿五日正午より村役場内に於いて第一第六兩區長の後任に就いて協議を行ふ

古鍛冶勝つ

平古鍛冶町對三丁目チームの野球試合は本日平第一小學校グラウンドに於て行はれたが四對三のスコアにて古鍛冶チーム辛勝した

- △自轉車工見習 二十以下 尋卒 月三圓(平窪村某)
- △文撰工 十九才 高卒 給料面談(平町某)
- △給仕 十六才 高卒 給料面談(平町某)
- △採炭夫 二十六才 尋卒 給料面談(長崎縣某)
- △店員 十八才 估賃卒 給料面談(平町某)
- △求人 二十以下 尋卒 給料面談(平町某)
- △女中 十八才 尋卒 給料面談(平町某)
- △求人の部 四圓(四倉町某)
- △見守 十七迄 尋卒 月
- △出前持 二十以下 尋卒
- △給料面談(平町某)
- △女中 十八才 尋卒 給料面談(平町某)
- △料面談(平町某)
- △後二、〇〇 婦人講座「繪を描いてと望む子供の爲に」三 長崎拔天
- △後五、三五 音樂講座「ジャズ音樂の話」加田愛咲
- △後六、〇〇 子供の時間 獨唱と齊唱 福島縣喜多方尋常小學校兒童
- △後六、三〇 山と海の講座 「阿蘇山」角田政治
- △後七、三〇 講演「オリンピックより歸つて」選手 園々長平沼亮三
- △後八、〇〇 映畫物語「臉の母」月岡秀粹
- △後八、三〇 花節「番町皿屋敷」京山華千代
- △後九、〇〇 薩摩琵琶「龍の口」水藤錦輝

印刷物の御用命は總て 常磐毎日印刷株式會社 電話三六〇番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫 雲 畫

第三百三十二席 眞庭念流の達人櫻井五助

要介周作を追跡

秋山要介は千葉向作の部屋に参ると門人の渥見十藏が其處に座して茶を喫んでゐる。

要「昨夜は御無禮を致した大層酷いにしてそれが爲に失禮もあつたであらうがお宿し下さい、千葉氏は何方へお出になつた、便所かな」

十「イエ、急になんでございまして、甚だなんでもございまして失禮をいたしました」

要「何がなんだどういふ事か」

十「今日は先生と試合を致す事になつて居りますが急用出来いたしましたに就て立戻りましてございまして」

これと聞くと秋山の眉がビリ／＼と動き目の色が陰しくなつて来た、渥見十藏驚いて襖を排いて逃げ道を拵へた、

要介はデリ／＼と進み寄り要「なんと云はれる、千葉氏は急用出来いたしましたに就て江戸に戻つたと」

古日でございますまして是非其今日中に戻つて置かねば明日の稽古に間に合ひません、甚だ失禮でございますがお先に御免を蒙ります、どうぞ此後御出府の節はお玉ヶ池の道場にお立寄り下さい

は後を追うて千葉氏に出會ひ勝負いたすであらう」

き来る風に袂をなぶられ快い心地今化地蔵の前までかゝつて来た、この地蔵は昔悪漢がこの前で人を殺して金を取り、地蔵に向ひ見て居るは貴様ばかり必ず此事を人に云ふと申しした時に俺は云はぬが汝云ふと口を聞いたさうで、イヤその賊は驚き鴻之巣まで逃げて来て旅宿に泊つたが、その夜から大熱、人を殺して金を取つた事を囁言に云つたこれが爲に捕縛になつたさうです、それ以來この石の地蔵を化地蔵と云ふ、その前まで千葉が参ると後から要「千葉氏暫時お控へ下さい、お待ちあれ」

と云ひながら蒐け寄る其人を周作が見ると秋山要介である

要「千葉氏、貴公は武士でありながら堅く約束いたせし事を履行致さぬ卑怯千萬この秋山要介が恐ろしいか貴公も今天下に名を知られた斯道の達人、拙者との試合を辭したとあつては北辰一刀流に理づける事と存ずる、サア立合へ」

周「イヤ貴殿を恐れて試合を避けた次第ではござらぬ急用出来いたしましたに就き立戻る、これより手前の道場に御同行下さらばお相手を致すであらう」

要「エー申すナこれにて立合へ」



と二階に駆け上つた、が一刀を腰にいたし小松屋を飛び出しこれから土手に参り千葉の後を追ふ、此方は周作先生です、小松屋の後にして十八丁の土手へかゝつた、九月の事で草に露を含み名も知れぬ秋草が葉を付けてゐる、ソヨ／＼と吹

周「道路に於て剣法の優劣を試みる事はなりません」

要「然らば眞剣勝負いたすエイ抜け」

要「勝負を叩いて進み寄る、千

葉周作はニッコリ笑ひ周「眞剣勝負を望まれるか貴殿には何等の遺恨もござらぬ、謂れなくして死生を争ふは愚者ならずば狂人である」

要「眞剣勝負をいたす事はならぬかこの腰抜けめ」

と穿いてゐた雪駄を取り

面部を望んでサツと打つて来た、身を交したのが千葉は左りの小額を打たれた、秋山はこれを見てこの卑怯者と云ひすて悠々と引退した

一冊の代金で御希望通りな

五冊の雑誌が自由に讀める

川崎巡回文庫

(申込次第規則書進呈) 電六三〇番

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病
林病 腸胃病 腸病
門專 十二指 腸虫病
院醫科 院醫科
七〇一話電

自由の雑誌
川崎巡回文庫
電六三〇番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番

月光に夢を追ひ
涼風に戀を語る
若人の胸をいかに高鳴る
美給揃つてウルトラサイピス!
シャンデリヤ淡き
鬱金の美酒
涼味満喫の境地!

カフエー音楽

内科 一般
醫學博士 **難波陸**
電話五〇二番

平町新川端(釜屋新宅向)

金 融

各生命保險會社保險證書二即時御融通
◎債券御取立ノ御依頼ニ應ジマス
債券整理ノ御依頼ニ應ジマス
平町南町(二十三夜側)

菊地靴靴店
電話(呼)四三六

涼味百パーセント菊地の白靴
お若いお方にノープル型
最新型はモダン好み
お中年のお方は先細型
とてもシイタクで値が安い
当店自慢のリネンシュー
三、二〇ヨリ……五、〇〇マデ